

2023年10月31日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社明電舎に「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留朗裕、以下「三井住友銀行」）は、株式会社明電舎（代表取締役：井上 晃夫）に対し、「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析融資/シンジケーション」は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎勝教）と弊行が作成した基準に基づき、企業の ESG 側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました株式会社明電舎の取組は、環境側面（E）、社会側面（S）及びガバナンス側面（G）の各項目について非常に高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、大変優れた取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じた SDGs 達成への高い貢献意欲をお持ちであることから、最上位評価の取得となりました。

特に、ESG 及び SDGs 達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

E：気候変動対策として、再エネ調達の拡大や、脱炭素化に資する設備投資を促進するためインターナショナルカーボンプライシング制度の導入等を進めている。また、EV 事業の推進や再エネ関連ビジネスの拡大のほか、昨今は環境対応製品をパッケージ化した GX 特高変電製品の拡販に注力している。Scope3 カテゴリ 11（製品使用段階）の GHG 削減に向けて中長期目標を設定しており、気候変動への対応を加速させていること。

S：従業員誰もが活躍できる組織を目指し、DEI（Diversity, Equity & Inclusion）コミッティやワーキングを設置し、多様性を尊重する組織方針を明確にしたうえで、ボトムアップで具体的な施策を提言する体制を整えていること。

G：経営トップが ESG を軸とした経営を推進する姿勢を示し、中期経営計画の非財務指標として、カーボンニュートラル達成やダイバーシティ、従業員エンゲージメントの向上等の KPI を設定している。また、ESG 関連の課題の抽出やリスク分析を行い、マテリアリティを明確にしていること。

SDGs：本業を通じた SDGs 達成への具体的な取り組みとして、エネルギーソリューションサービスや社会インフラ事業等の社会課題解決に資するサービス・事業を開発し（インプット）、その普及（アウトプット）を通じて、顧客における環境負荷の削減等を実現（アウトカム）し、SDGs が示す「目標 7（クリーンエネルギー）」「目標 11（住み続けられるまちづくり）」「目標 13（気候変動に具体的な対策を）」等の達成に貢献していること。また、「明電舎レポート 2023」等で、グループの事業活動と SDGs の関連性を示すと共に、事業戦略によって貢献する SDGs の目標を明示していること。

三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ESG とは

ESG とは環境 (Environment) 、社会 (Social) 、企業統治 (Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上